

# P新人賞2017 最終選考上演会

【puppet】のP、【performance】のPを冠した「P新人賞」は、人形やオブジェ、身体を軸にした舞台芸術を対象に、新たな才能の発掘を目指して開催されるコンペティションです。7度目を数える今回も、最終選考に残った3組は応募作を実際に上演。2日目の終演後には、最終選考委員による公開ディスカッションが行われ、P新人賞2017が決定します。また、公演2日間の入場者投票で決まる観客賞も同時決定。アナタの一票をお待ちしています!

## P新人賞2017 最終選考上演会

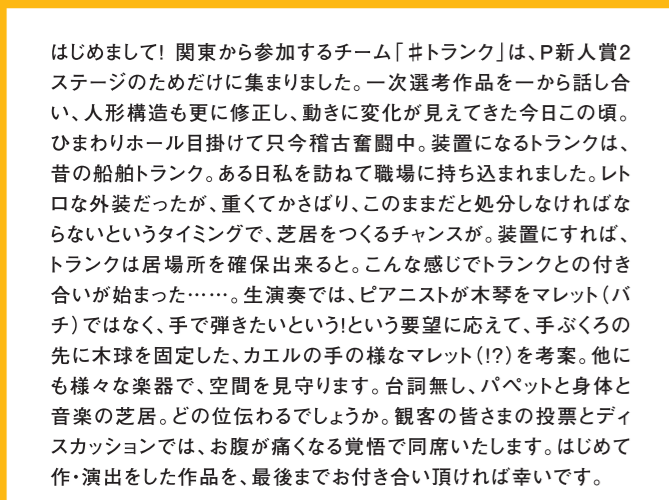
2月17日(土) 18:00、18日(日) 13:30  
 損保ジャパン日本興亜人形劇場ひまわりホール  
 前売2,100円 当日2,400円

最終選考上演団体から**熱い**メッセージが届きました!



オレンヂスタ(愛知県)  
『MANGAMAN』

私たち「オレンヂスタ」は2009年の旗揚げ以来、名古屋の小劇場にて「演劇」を行ってきた「劇団」です。今まで、コンテンポラリーダンスと現代口語会話劇の融合や、食器を家族に見立てた人形劇など、実験的な演出をとり入れてきました。今回、P新人賞2017にて上演させて頂く作品「MANGAMAN」は、2017年に愛知人形劇センターPresents「劇作家とつくる短編人形劇」にて上演した作品の再演です。舞台は近未来。恋愛観や婚姻制度の変化に伴い表現が規制されてしまった漫画業界で、表現者たちが自由を求め抗う物語です。それを演劇的アクションやパネルシアターの技法をお借りして、コメディ調に創り上げました。「劇団」がお届けする「P」Panel Performance一、ぜひお楽しみに!



はじめまして! 関東から参加するチーム「#トランク」は、P新人賞2ステージのためだけに集まりました。一次選考作品を一から話し合い、人形構造も更に修正し、動きに変化が見えてきた今日この頃。ひまわりホール目掛けて只今稽古奮闘中。装置になるトランクは、昔の船舶トランク。ある日私を訪ねて職場に持ち込まれました。レトロな外装だったが、重くてかさばり、このままだと処分しなければならぬというタイミングで、芝居をつくるチャンスが。装置にすれば、トランクは居場所を確保出来る。こんな感じてトランクとの付き合いが始まった……。生演奏では、ピアニストが木琴をマレット(パチ)ではなく、手で弾きたいという要望に応じて、手ぶくろの先に木球を固定した、カエルの手の様なマレット(?)を考案。他にも様々な楽器で、空間を見守ります。台詞無し、パペットと身体と音楽の芝居。どの位伝わるでしょうか。観客の皆さまの投票とディスカッションでは、お腹が痛くなる覚悟で同席いたします。はじめて作・演出をした作品を、最後までお付き合い頂ければ幸いです。



児玉真理(神奈川県)  
『#トランク』



トランク機械シアター(北海道)  
『R』

トランク機械シアターは、「大人と子どもと一緒に楽しめる作品」をテーマに2012年から活動をしています。しかし今回の作品はこのテーマは取り入れずに作りました。演劇祭で上演する作品だったということもありましたが、他にどんなことができるか実験的なこともしたり、この作品を作りました。物語は後悔のお話です。もしかしら、こうなるかもしれないなあというお話です。一度公演した作品ですが、今回P新人賞の最終選考に残ったことで作り直し真っ最中です。物語は変わらず、見せ方をもっと工夫できるのか、役者のアイデアを取り入れながら稽古をしています。どんなものが仕上がるか元に戻るのか現時点ではわかりませんが、札幌で公演を行ったのち名古屋へ向かいます。昨年の作品とは違う面白さを観ていただけるように試行錯誤していきます。どうぞよろしくお願いたします。



2017年度乙女文楽公演「袖袷祭文の段」の様子 撮影:古屋均

皆様、あけましておめでどうございませう。これから4回にわたり乙女文楽の紹介をいたします。「乙女文楽」——初めて目にする言葉かもしれませんが。昔から日本に伝わる人形浄瑠璃「文楽」の伝統の積み重ねから生まれた古く新しい独自の形にユネスコ無形文化遺産に認められた「文楽」は、太夫・三味線・人形遣い・演じ手はすべて男性です。一体の人形を男性が三人で遣います。それに対して「乙女文楽」は人形の外見はそのままに女性が二人で遣えるように工夫されています。太夫・三味線も主に女性です。文楽の三人遣いは繊細で豊かな表現力で世界的な評価を受けていますが、その表現をたった一人で実現する所に乙女文楽の特色があります。人形と人形遣いを特殊な金具を使って、体化させ運動させる為、ダイナミックでスピーディ、かつ女性の感性を生かした繊細な動きを届かせる事が出来るようになりました。

装着用の金具の用い方により「胴金式」と「腕金式」の二種類の方法があります。大正から昭和の初めにかけて文楽の人形遣い五世桐竹門造師をはじめとする人びとの工夫によって生まれました。この違いは次回ご紹介致します。現代人形劇団である「ひとみ座」は、1967年「胴金式」創始者の五世桐竹門造師の直弟子である桐竹智恵子師に教えを受け始めました。伝統を新しい創造の糧にする事を目的とした創造活動の為の研修が当初の目的でしたが、今日まで四十五年以上にわたり芸を磨き、現在は「乙女文楽」を継承する唯一の職業劇団として(個人として活動している方はいらっしゃいます)、国内はもとより海外でも多数の公演活動を行っています。桐竹智恵子師ご逝去後、2010年からは文楽の人形遣いである桐竹勘十郎師に指導を受け、新しいレパートリーにも取り組んでいます。

次回以降は  
 第二回 技術的特徴・腕金式と胴金式・人形の操り方と道具  
 第三回 乙女文楽の歴史と時代背景  
 第四回 次世代への継承と育成



執筆プロフィール  
 松本幸子(人形劇団ひとみ座)  
 1988年、人形劇団ひとみ座に入団。以来、人形劇俳優として活動。1991年よりひとみ座乙女文楽に参加。2010年からひとみ座幼児劇場ひまわり所員。主な出演作品に「天守物語」亀姫(1998)、「ロミオとジュリエット」ジュリエット(2001)、「マクベス」魔女(2012)。乙女文楽では、「義経千本桜」忠信、「新口村」孫右衛門、「戻り橋」渡辺綱、「壺坂靈驗記」沢市、「二人三番叟」等。また、台湾、スペイン、スロベニア、ルーマニア、スロベキア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、フランス、ポーランド等の乙女文楽海外公演に参加。



故・桐竹智恵子 撮影:加藤昭裕

特定非営利活動法人  
**愛知人形劇センター**  
 〒460-8551 名古屋市中区丸の内3-22-21  
 損保ジャパン日本興亜名古屋ビル8F  
 TEL 052-212-7229 FAX 052-212-7309  
 http://aichi-puppet.net/ MAIL:mail@aichi-puppet.net

愛知人形劇センター  
 ひまわりホール情報誌  
 通巻303 2018年冬号  
 発行:特定非営利活動法人 愛知人形劇センター  
 発行人:木村繁  
 編集人:たかしちげん  
 デザイン:江利山浩二(KINGS ROAD)  
 編集:小島祐未子(常務編集委員)  
 ©愛知人形劇センター ※本誌記事・写真・レイアウトの転載を禁じます。

2018 WINTER  
 VOL.303  
<http://aichi-puppet.net/>

Aichi Puppetry Center

# あぶ。

ひまわりホールから  
 発信する  
 シアター情報誌

去りし2017年、  
 人形も人間も  
 ひまわりホールを  
 彩りました…

① Puppet Theaterゆめみトランク「BUDORI〜宮沢賢治「グスコーブドリの伝記」より〜」(原作:宮沢賢治、演出:ゆみだてさとこ、監修:沢則行)

② 劇団シンデレラ「天使が、町にやってきた!」(作:フロレスともこ、演出:ファンキー健一)

③ 人形劇団むすび座「泣きむし大男」(脚本:八幡美佳、演出・美術:福永朝子)

④ 人形劇団むすび座「おきなかぶ」(構成・演出:柿内尚生)